

二見 御厨神社 「仮寝の松 御由緒」

明石西高校から南東方向、東二見駅の近くにある御厨(みくりや)神社は、多くの氏子がいる由緒ある神社です。春にも祭りがあり、多くの屋台が集まります。

御厨神社南門の直ぐ左(西)に「仮寝の松」があります。由緒を書いた看板に、「延喜元酉年(901)に菅公

筑紫へ御下向の時、御船を寄せ給ひ、この御神に奉幣有りて一夜を宿したまふ。依って仮寝の岡と云ひ、又御神木をかりねの松と云ふ。寛和年中(985)に此の岡に天満宮を勧請す」とあります。平安時代、菅原道真が太宰府に左遷される際に、立ち寄ったことに由来する話が伝わっています。

瀬戸内の各地には菅原道真に由来する天満宮が多くあり、この付近には、加古川の浜の宮天神社、栗津神社、高砂の曾根天満宮、姫路の大塩天満宮などがあります。

御厨神社は、今は祇園宮、八幡宮、天満宮の三宮を祭っていますが、元は君貢大明神(伊弉諾伊弉冉尊)を祀っていたそうです。また、神話にある神功皇后三韓渡航の時、船を寄せてこの岡で船子を加え、穀物を調べ、加子庄と御供裏屋とを二見の里と呼び、五穀を献じさせたとも書かれています。(写真:2016年4月30日撮影)



魚住 住吉神社 「袂い除(はらいよけ)の藤」

魚住漁港の近く、魚住町中尾の住吉神社は、魚住町と大久保町南部を神領地と定められた、多くの氏子がいる由緒ある神社です。春には、本殿のすぐ北にある藤棚の藤が美しく咲き、多くの見物人が訪れます。

由緒を書いた看板には、「古昔摂津の堺に祀られた住吉大神があるとき「播磨の国に渡り住はむ、藤の枝の流れ着いたところに我をいわい祀れ」とお告げを出された。そこで藤の大枝を切って海に浮かべた。藤は当地方に流れ着いたので・・・お祀りされました。・・・住吉大神はお祓いの御神徳を有せられる神様であり藤は住吉大神の神木であります」と記されています。なお、この藤は明治中期頃に植えられたものだそうです。

瀬戸内の各地に住吉神社が多くあり、内陸部や沿岸部に分布しています。多くは、住吉神社の荘園が拡大したことによります。沿岸部では、魚住町中尾の住吉神社のような藤の枝による由来があります。

この住吉神社の境内には、立派な能舞台(明石市指定文化財、江戸時代)や楼門(市指定、江戸時代)の建物、石造灯籠(県指定、室町時代)、神馬図絵馬(県指定、江戸時代 円山応挙筆)、大和型船模型(市指定、江戸時代)の文化財があります。南に少し下れば砂浜があり、魚住漁港、そして海が広がります。(写真:2016年4月30日撮影)

